# 都市青少年向けＰＲ活動について

上松・総務課　○小木曽基雄
松田　博文
依田　忠雅
小瀬木文武

はじめに

近年，森林の減少，酸性雨，オゾン層の破壊等，いわゆる地球環境問題が世界的課題となる中で，地球環境に果たす森林の役割が大きくクローズアップされてきている。このような中で，都市部の小中学校においては，環境教育等の見地から修学旅行等の機会を利用して森林・林業や山村の人々とのふれあいを求めようとする傾向が見られる。また，学校教育や社会教育を通じた環境教育の積極的推進への気運が見受けられる。

国有林は森林を守り育てるプロ集団であり，また恰好な環境教育のフィールドを有することから，学校教育等との連携を図りながら，環境教育に積極的に参画し，地球環境における「森林の役割」を体験的に理解させ，併せて森林を守り育てる「林業」への関心を高めていくことが，新たな時代における国有林の使命の一つであるといえる。

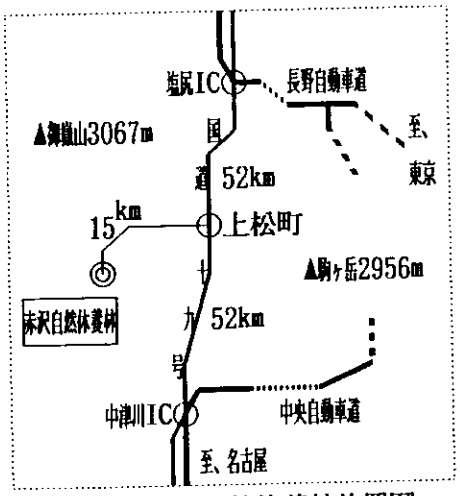
そこで，環境教育への参画を「都市青少年向けＰＲ活動」として位置付け，赤沢自然休養林における平成４年度の活動実績を踏まえ，具体的な手法について検討した。

## １　赤沢自然休養林の概況

### （１）赤沢自然休養林の沿革

赤沢自然休養林は，昭和４４年に７３０ヘクタールが指定を受け翌年開園された。木曽郡上松町の南西１５Kmに位置し，木曽ヒノキを主体とした天然林で，日本三大美林の一つに数えられている。

昭和４５年開園以来，入込み状況は図－２のとおりである。開園から

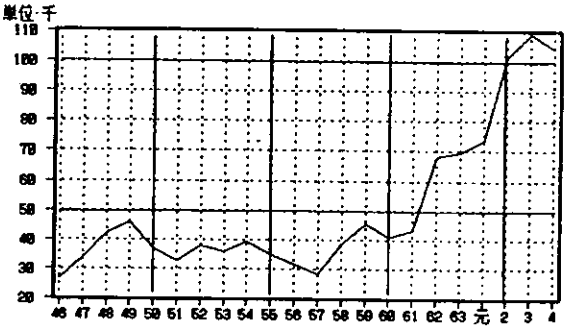



図－１　赤沢自然休養林位置図

１０年程は当自然休養林の知名度も低くかったこともあり年間３万人から４万人の入込みで推移してきた。昭和５７年に森林浴という言葉が生まれ，当休養林で第一回森林浴大会が開催されたのを契機に森林浴がブームとなり，同時に当自然休養林も全国的に知られるようになる。

さらに森林鉄道の運行，高速道路の開通等により関東方面からの入込み者も増え，ここ３年は年間１０万人を越える入込み状況となっている。

また，平成４年４月からは，受益者負担の考え方に基づき利用者のサービス向上等を目的として「赤沢渓谷を美しくする会」を発足させ，利用者協力金を導入，園内の清掃美化費用に当てている。なお，赤沢自然休養林の知名度の向上に伴い，案内要請の頻度が高くなっている。案内要請は表のとおりであり，本年度より開始した森林インストラクター受託業務を適用したものは９件，このうち受託収入は１７万円（１月末日現在）となっている。




図－２　赤沢自然休養林入込み推移

| 依頼者 | 域内 | 域外 | 合計 |
|---|---|---|---|
| 学　　校 | 7 | 18 | 25 |
| 公共団体等 | 5 | 10 | 15 |
| 林業団体等 | 3 | 4 | 7 |
| そ　の　他 | 4 | 25 | 29 |
| 計 | 19 | 57 | 76 |

表－１ 平成4年度　赤沢自然休養林案内要請状況

（２）赤沢自然休養林の施設

赤沢自然休養林には，次のような施設があり，観光客に利用されている。

ア　遊　歩　道…林齢約３００年の木曽ヒノキの林の中を６コース設定

イ　森林教室の広場…林内にベンチを設け集合学習ができる。

ウ　森林鉄道記念館…蒸気機関車等の展示とレールが敷かれている。

エ　森林資料館…木曽地方の森林・林業に関する資料や機具などを展示。

オ　宿泊施設…上松営林署が運営する去来荘・三木荘。

カ　有料駐車場…年間１万９千台が利用する。

キ　レストハウス等…上松町が運営している。

ク　林鉄の運行…上松町が観光用に運行している。

## 2　学校教育への参画状況

（1）平成４年度の修学旅行の対応状況

今年度においては，兵庫県尼崎市立の金楽寺小学校，塚口小学校また，千葉県船橋市立の豊富中学校，柴山中学校，三田中学校，二宮中学校の２小学校４中学校の対応をした。金楽寺小学校，塚口小学校，豊富中学校，柴山中学校については，約２ヶ月前に申込みを受け，３０分程度の森林教室（休養林の概要説明程度）を実施するにとどまった。

また，三田中学校にあっては１ヶ月前に申込みを受け，内容は午前午後各１時間半の持ち時間があり，休養林内を案内し解説した。

二宮中学校にあっては，森林教室，ヒノキの植付作業の体験学習を行ったが，同中学校では体験学習等の経過をまとめているので次の通り分析した。

（2）二宮中学校における体験林業の実施状況

ア　実施状況

二宮中学校の場合，６ケ月前から体験林業をしたい旨，打合わせに訪れており，奈良井，藪原，南木曽の各営林署も申込みを受け，当署では２クラスを担当した。

依頼されたカリキュラムは午前のみで，１時間半程の植付作業と，その後休養林内で３０分程度の森林教室を行った。

午後は班ごとに地場産業の体験学習をするため，それぞれの研究先へ分散していった。当署では休養林内を案内するなどにより，午後も１～３班を受け持つことも可能であったが，研究課題の選択に際して，当休養林内の豊富な研究教材を活用されなかったことが心残りであった。

写真－１　植付作業体験

イ　体験林業の成果

生徒達の反応は，修学旅行の学習を取り纏めた「結び葉」で，次のような感想文があり，体験林業の成果としてをとらえることができる。

～修学旅行研究報告「結び葉」から（原文のまま）～

○　いかに森林が私達の暮らしに関わっているかを知って，改めて森林について考えさせられた。

○　今自然破壊などといわれていますが，植林をしたことによって皆がその事態を身近に受けとめてくれたら…と思いました。

○　土を掘って苗木を植える，言葉で表してしまえば簡単な作業かもしれませんが，実際にはとても難しく大変で，気を使うことなのです。

○　一つ一つの小さな存在が集まって森林となり，やがて世の中をも守る，大きな存在と化するのです。自然が森林が木が植林が，美しい地球を保っているのです。

○　森林教室体験を胸に，いつまでも森という自然を大切に思える心を持つ人間でありたい。

○　森林教室・植林体験をして，私たちは森林とふれあい，森林の大きさなどを知り，自然に一歩近づいたような気がしました。

○　一本の木が生長するには五十～六十年もかかり，育てるのも楽ではない。でもそんな苦労にも負けずにずっと営林署の方々が一生懸命に育ててこられたからこそ，森林が多く残っているんだと思う。

写真－2　　森林教室

○　百年の間，木を切っては植え，切っては植えて，バランスを保ってきた，その歴史ある植林をこれからの山のため，人間のため，ずっと続いてほしいと思います。

以上のような生徒達の感想とともに，最後に次のような言葉で『森林学習のまとめ』を結んでいる。

「二宮中学校の森林教室は，一人一人の植林という，船橋ではかつてな

い試みによって各紙に報道されることとなった。自然を如何に体感するか。そして，その息吹を如何に感じとるかということへの一つの提言が二宮中によってなされたのである。（中略）　これらの木に刻まれた年輪の一つ一つに，二宮中の木曽での思い出が込められているのだ。過去の歴史に更に新しい年輪を加えることとなったこの試みが来年以降も受継がれて行って欲しいと思う。」

このような反応から，体験林業を通じて森林・林業について理解がより深まったと見受けられる。しかし，今後こういった環境教育をより充実した形で，受入れを拡大していくにはいくつかの課題があり，その課題に積極的に取り組んでいかなければならない。

3　今後の課題と取り組み

これまでの赤沢自然休養林を活用した環境教育の活動の成果と取り組みについて，次のように考察した。

（1）より理解を深めるためのカリキュラムの作成。

印象深い内容とするため，赤沢自然休養林だからこそできるフィールドを活かし，分かりやすく，楽しめて，親しめるカリキュラムを作る必要がある。

（対策）

すでにある案内者用のガイドブックを整理し，赤沢自然休養林のポイントと解説を網羅した，独自の森林インストラクター用マニュアルを作成する。

生徒達に森林・林業について，体験学習前後にアンケート調査を行うなどにより理解度を把握しカリキュラムの検討をする。

（2）体験林業の場の体系的な整備。

体験林業は，時間的制約もあり，どちらかというと単発的で森林・林業の一端を垣間見る程度に終始してしまうのが一般的である。そこで限られた時間の中で，効率的かつ体系的に森林・林業を体験できる場を整備する必要がある。

（対策）

ア　体験林業の森

赤沢自然休養林の周辺に「体験林業の森」を確保し，植樹，除伐，間伐等の実習，将来的に「青少年の森」に誘導していく。

～　植樹の段階からすべて青少年の手でリレー的に森を育てさせ，施業記録を青少年の手で作成させる。その施業記録について事前学習し現状を学ぶ　～

イ　見て体験できる環境教育路の設定。

赤沢自然休養林及びその周辺で，人工林施業～天然林施業の実態を学習しながら森林とのふれあいを楽しむ，いわゆる「環境教育路」を整備する。

～　環境教育路沿いの学習ポイントを解説したパンフレットを作成し，所要時間に効果的な体験学習を進める　～

（3）森林インストラクターの資質の向上。

国土を保全し，地球の環境を守り人々の生活に必要な林産物を供給してくれる森林を，次代を担う青少年によく理解されなければならない。とかく我々の仕事の中では一般の人達を案内し解説するという機会が少なく話力が未熟である，また，必ずしも期待した受止め方をされているようではない。どんな教え方をすれば良いのか森林インストラクターの資質の向上を図る必要がある。

（対策）

今年度も二度の伝達研修を行っているが，更に職場内研修の充実と自己研鑽を積み，積極的に案内の機会を増やすことにより，森林インストラクターの資質の向上を図る。

全国森林レクリエーション協会の森林インストラクター資格試験を積極的に受験する。

（4）パンフレットの作成・配布等による周知。

旅行会社，学校教育等が企画をたてやすいように，受入れ態勢をアピールする必要がある。

（対策）

時間単位にできるカリキュラム・メニューを揃え，宿泊施設や地場産業を紹介した，魅力あふれるパンフレットを作成し，旅行会社，学校教育等へ配布する。

（5）学校教育等との連携による効率的実施。

限られた時間の中でセッティングする必要があることから，所定の時間の

中で効率的に思い出に残るような形で実施できるように学校教育等と意思疎通を行う必要がある。

（対策）

準備の段階で，プログラムの構成，主旨等，また細部について打ち合わせをしスムーズな進行が図れるようにする。また，青少年との心の交流を図り学習の前後でケアしていく。

～　ビデオを送付し，学習してもらう。（既に林野庁では，貸出しを行なっている。）

卒業式に祝電等を打つことや，記念品，稚樹，種子，さし木を贈るも具体例としてあげられる。　～

4　まとめ

今後の課題と取り組みについての考察結果を踏まえて，赤沢自然休養林で実施する「都市青少年向けＰＲ活動」を次のように検討した。

（1）赤沢自然休養林及びその周辺での環境教育の素材

大型バスが乗り入れ可能な赤沢自然休養林，および沿線にある環境教育に使える学習の素材は次の通りである。

ア　造林作業箇所（植付・下刈・つる切・除伐・枝打の体験ができる。）

イ　生産事業地（伐採・集材・造材の見学ができる。）

ウ　治山事業地（堰堤「ヒノキと水の森」がある。）

エ　赤沢自然休養林内の森林教室広場・野外ステージ・環境教育路等で森林学習，森林浴ができ，雨天でも対応が可能。

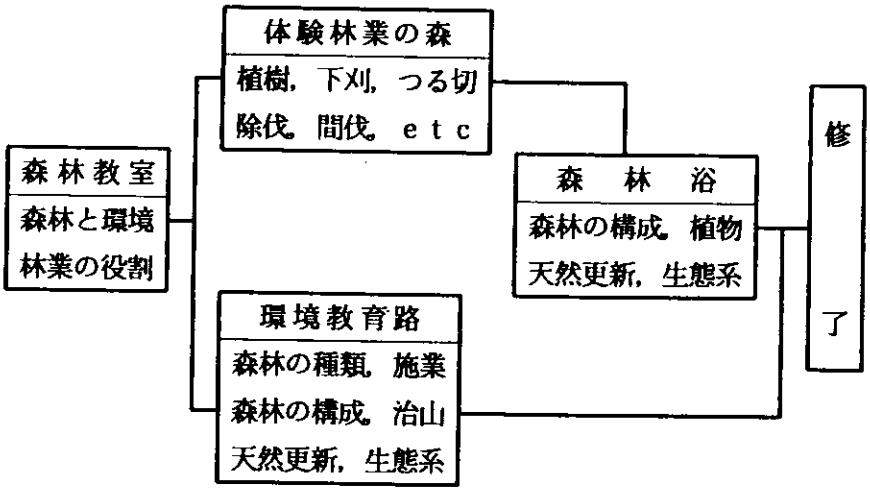
オ　製材業者の協力を得て製材所見学，上松町の協力を得て林鉄乗車が可能

図－3　　赤沢自然休養林森林浴マップ

（2）実施プログラム

学習素材をもとに，カリキュラムの体系とメニューを検討した。

ア　カリキュラムの体系




図－4．　カリキュラムの体系図

（ア）森林教室を基本とし，目的によって3コースを設定。

（イ）学校との打ち合わせの中でコースの選択を行う。

（ウ）各コースともマニュアルを作成し，効率的な学習を進める。

イ　カリキュラムのメニュー

| 区分 | 内　　容 | 実施箇所 | 所要時間 |
|---|---|---|---|
| 森林教室 | 森林・林業の役割や重要性<br>営林署の仕事の紹介<br>赤沢自然休養林の説明 | 休養林園地<br>実習箇所 | 15～30 |
| 林業体験 | 造林作業の実習<br>測樹実習・林業機械の操作<br>現地見学<br>①生産事業地の見学<br>②森林施業地の見学<br>③治山事業地の見学<br>④製材工場の見学 | 赤沢線の沿線での事業地<br><br><br><br><br>ヒノキと水の森<br>地元製材工場 | 60～120<br><br>30～60 |

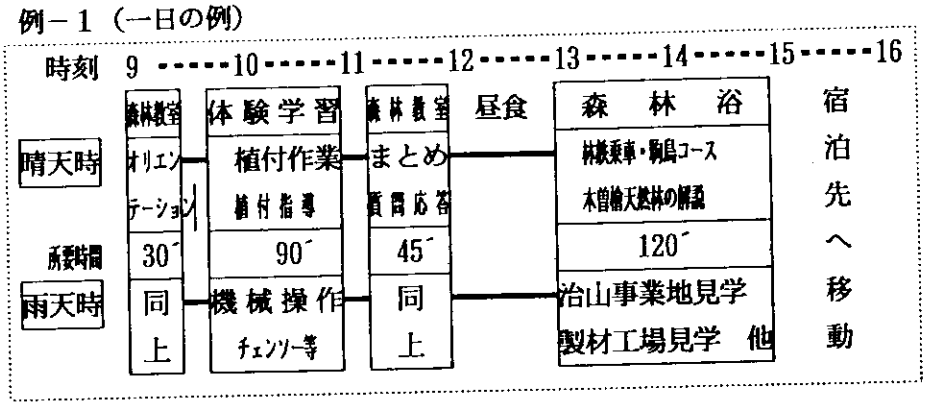
| 区分 | 内　　容 | 実施箇所 | 所要時間 |
|---|---|---|---|
| 環境教育 | 森林の種類，遷移，施業<br>森林の機能を体感<br>天然更新地，生態系を観察 | 環境教育路 | 60～90 |
| 森林浴 | 休養林内のガイド<br>森林の構成，遷移，生態系<br>天然更新，歴史 | 休養林遊歩道 | 60～180 |

体系に沿って目的に応じ，これらのメニューから選択し組み合わせる。

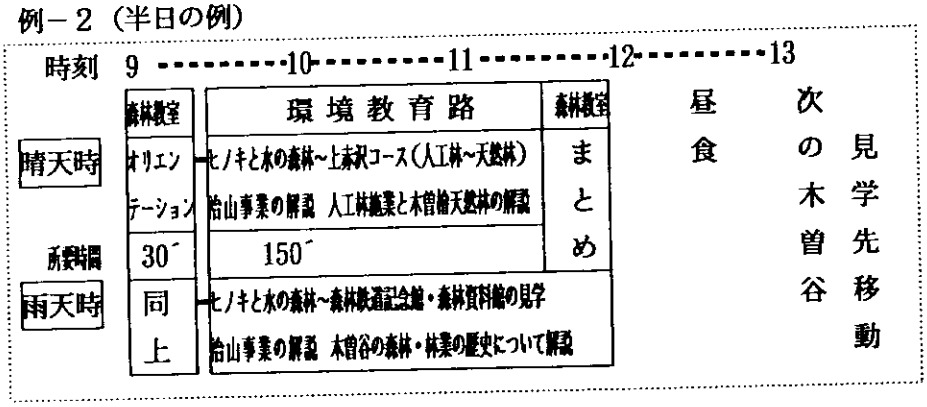
（3）プログラムの例

カリキュラムの体系，メニューから，実際に赤沢自然休養林で実施可能な，プログラムの一例をあげた。

例－1（一日の例）




例－2（半日の例）




このように，赤沢自然休養林の魅力や，環境教育のカリキュラムを作成し

ておき，学校教育等へＰＲすることにより，旅行の企画を樹て易くし，受け手側としても，いつ申し込まれても対応がスムーズに，そして効率的な実行が可能となり，正しく森林・林業が理解されるものと考える。

## おわりに

平成２年度及び平成３年度業務研究で報告された，岩村田署の「森林と国有林に関するアンケート調査」からも，特に４０歳未満の若い世代に営林署や森林・林業のことがあまり知られていない現状が浮き彫りにされている。このことから修学旅行の受入れ等「都市青少年向けＰＲ活動」が有効であり，そして，効果的に実現させ，青少年の心に刻めるかが国有林の応援者となる鍵であると考える。

本年も既に数校の小中学校から来年度の修学旅行の申込みがあり，また，旅行会社からの問合わせも受けている状況であるので，さらに整備を進めて迎えなければならないと考える。今後も関係者のみならず広く皆様からのご指導をお願いしたい。

## 参考文献および資料


- 「森林インストラクター入門」全国林業改良普及協会
- 「森林を生かした野外教育」飯田稔　編著
- 「総合森林学」上飯坂實　編著
- 「木曽の上松～わが郷土の文化と歴史～」木曽の上松編集委員会
- 修学旅行研究報告「結び葉」平成4年度 船橋市立二宮中学校
- 赤沢ヒノキ林の管理経営に関する調査報告書1984
- 鶴見文書「国有林野事業と学校教育・社会教育分野との連携の強化について」平成4年7月8日付4-107(全)
- 読売新聞記事，「全高校生に勤労体験学習（文部省構想）」平成4年12月24日朝刊1面
- 林野通信，「ようこそ森林へ」「森林の案内人から」「森林インストラクター研修の概要」
- 林業技術，論壇「高校林業科の目指すべき方向」 鶴見武通
  「高校理科の改革と森林・林業教育」 早崎博之
  「こだま」「杉浦考藏の5時からゼミ」「森へのいざない－親林活動をサポートする」
- 現代林業，「ワイドワイド」－森林文化教育の授業から 鈴木真 杉並区立桃井第4小学校教諭